

公益社団法人日本看護科学学会 平成27年12月社員総会 議事録

日 時：平成 27 年(2015 年)12 月 4 日（金）17：30～19：10

場 所：リーガロイヤルホテル広島 3 階 瀬戸

（広島市中区基町 6-78 TEL: 082-502-1121）

総 社 員 数：264 名

出席社員数：188 名（会場 94 名、委任状 94 名）

会場出席社員：秋元典子、朝倉京子、麻原きよみ、阿曾洋子、荒尾晴恵、荒木暁子、安藤幸子、石井邦子、石橋みゆき、井上智子、井部俊子、岩永喜久子、江川幸二、遠藤俊子、遠藤みどり、大池美也子、岡田由香、岡本玲子、小野幸子、掛田崇寛、門間晶子、萱間真美、河原宣子、河原田まり子、北素子、木下由美子、金城芳秀、荃津智子、工藤せい子、グレッグ美鈴、国府浩子、小坂橋喜久代、河野あゆみ、小島操子、小林たつ子、小山真理子、近藤浩子、酒井郁子、佐々木幾美、定方美恵子、佐藤禮子、真田弘美、清水嘉子、新道幸恵、杉浦太一、鈴木久美、鈴木志津枝、祖父江育子、高田早苗、多喜田恵子、竹崎久美子、武村雪絵、田中京子、田中美智子、谷本真理子、近田敬子、津島ひろ江、鶴田恵子、中村美鈴、中山洋子、西田直子、西村ユミ、野地有子、野村陽子、簗持知恵子、早川和生、林優子、東サトエ、日高艶子、福島道子、法橋尚宏、本田育美、前田ひとみ、眞壁玲子、正木治恵、眞嶋朋子、増島麻里子、南裕子、宮腰由紀子、宮下美香、村嶋幸代、百瀬由美子、森菊子、守田美奈子、柳澤理子、山内豊明、山田律子、山本あい子、山本則子、吉沢豊予子、吉田久美子、吉田千文、吉田俊子、若村智子
（以上 94 名・50 音順）

出席名誉会員：前原澄子

出席理事・監事：萱間真美、井上智子、麻原きよみ、勝原裕美子、グレッグ美鈴、酒井郁子、（うち 14 名社員）真田弘美、高田早苗、中山洋子、西垣昌和、西村ユミ、村嶋幸代、山本則子、吉沢豊予子（以上理事）、阿曾洋子 南裕子（以上監事）

議 長：萱間真美（理事長）

議事録作成者：麻原きよみ（総務担当理事）

I. 開 会

開会時、会場出席者数65名（うち理事・監事14名）、有効委任状94名、総計159名であり、全代議員 264名の過半数であるため、定款第23条および第24条に定められた要件を満たしており、公益社団法人日本看護科学学会の平成27年12月社員総会は成立した。司会は井上智子副理事長、書記は竹森志穂（聖路加国際大学）、江口可南子（聖路加国際大学）で行なわれた。

II. 理事長挨拶

萱間真美理事長より、以下の挨拶があった。

明日よりこの広島で小山学術集会会長のもと、チーム医療、科学者の行動規範、地域包括ケアシステム、原子力災害に関するもの、急性期医療と認知症、また若手の活躍に関するものなど、とても意欲的なプログラムが並んだ学術集会が開催される。交流集会も非常に多く予定されており、

学会の各委員会でも今後の方向性を踏まえて様々なプログラムを準備している。学会の成功を祈念している。

今回は、本社員総会と明日開催予定の学会総会について、これまでと進行の仕方を変えることを理事会で検討した。これまでは、6月の社員総会で決算、活動報告の承認を得ているが、12月の社員総会でも決算、活動報告について報告していた。しかし、社員総会では代議員との実質的なディスカッションの時間を持つことが大切であると考えている。そのため、すでに承認を得ている活動報告については本社員総会では行わず、来年度の活動計画を各委員会理事より丁寧に説明し、それに合わせて予算案の審議と今後の活動について議論いただく場としたい。明日の学会総会では、昨年度の事業報告、決算報告の説明と表彰を行うため、内容は本社員総会とかなり異なる。ぜひ両方とも参加いただきたい。

III. 第35回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶

小山真理子第35回学術集会会長より、以下の挨拶があった。

中国地方で初めての日本看護科学学会学術集会となるため、企画委員・実行委員一同で準備を進めてきた。広島は今年被爆70年となったが、看護の専門領域を超えて多くの看護師が集まるのは大変意義深いと考える。広島らしいプログラムを考えたが、過去のことだけでなく、原子力災害や地域包括医療などもプログラムに入れ、社会の動きを見据えた看護のあり方を、教育者、研究者、実践者でともに考えるということをテーマとした。

今年はプログラム集を小さく軽いものにするように交渉をした。また演題数が多く、講演集も重くなってしまうため、会場で見やすいようにアプリ版を導入したので試していただきたい。明日、明後日の集会へのご協力をお願い申し上げたい。

IV. 議長指名および議事録署名人の承認

定款 22 条 3 項に従い、萱間理事長が議長に選出された。会場出席者から議事録署名人を募ったが立候補がなかったため、議長より代議員の秋元典子氏（岡山大学）と森菊子氏（兵庫県立大学）の2名が推薦され、承認された。

続いて、議長より議事の進行について、審議事項である事業計画案に重点をおくため、理事会報告と総務報告以外の委員会活動報告については理事長より簡単に説明し、その後各担当理事から事業計画案の説明をするという流れについて説明があった。

V. 総務報告・理事会報告・委員会活動報告

1) 総務報告 <麻原理事>

議案書（p3）に基づき、以下の報告があった。

会員の推移について、平成27年4月1日の段階で正会員7,528名（前年度末の8,035名のうち資格喪失者507名を引いた数）であった。今年度の入会者は808名で、新規入会728名、再入会80名であった。死亡喪失者が2名、会員区分の変更が2名あった。賛助会員の増減はなかった。

平成27年10月31日現在、正会員8,332名、名誉会員15名、賛助会員5件、会員総数8,352名である。議案書p3の下部に記載した棒グラフは正会員数の推移であり（平成27年10月30日現在を31日現在に訂正）、増加傾向である。

2) 理事会報告・委員会活動報告 <萱間理事長>

【理事会報告】

議案書（p4～7）に基づき、以下の理事会報告があった。

前回の社員総会後、7月25日に臨時理事会を開催し、前回の社員総会で承認された役員の役割等を決定した。第3回理事会では、学術集会の準備、学術集会における演題取り下げ事例への対応、世界看護科学学会（WANS）理事会への出席等の討議を行った。第4回理事会では、社員総会と学会総会の進め方について検討し、今回の様々な変更について議論した。また、第38回学術集会会長についても検討したため、本日の第3号議案として審議する予定である。本日12月4日に第5回理事会を開催し、第36回学術集会の広告のあり方を含め様々なことを検討した。

【委員会活動報告】

議案書（p 10～17）に基づき、以下の委員会活動報告があった。

- ＜総務委員会＞入会審査等の会員に関する事業と学会事務職員に関する管理を行っている。
- ＜和文誌編集委員会＞理事会の交代に伴い、委員長も山本理事に交代した。査読委員や査読の進め方、編集委託業者の変更に伴う様々な変更について検討している。本日、和文誌のシステムの変更についての説明会を行う予定である。
- ＜英文誌編集委員会＞Holzemer 編集長が来日したときに委員会等を行い、活動の方針などを討議しているが、今年は編集に関わる様々な費用と英文誌を通じた社会貢献をどのように進めていくかという討議がされている。
- ＜研究・学術情報委員会＞若手研究推進委員会が独立したため、今後JANSとしてどのようなセミナーや啓発活動を行っていくかについて検討している。
- ＜国際活動推進委員会＞世界看護科学学会（WANS）を含む活動をしている。今年、WANSが開催され、今後の活動について検討している。
- ＜看護学学術用語検討委員会＞第9・10期に続いて、新たな委員会が今後どのような活動を行っていくかについて検討している。
- ＜看護倫理検討委員会＞看護倫理に関する様々な問題についての学会としての対応を考えており、JANS36での交流集会を企画している。
- ＜社会貢献委員会＞今年の市民フォーラムは「けん玉でいきいき健康づくり - けん玉を体験してみよう - 」という興味深いテーマとなっており、社会貢献について様々な検討を行っている。
- ＜表彰論文選考委員会＞明日の学会総会で優秀賞と奨励賞を発表し表彰するが、この選考について厳正な審査を行った。
- ＜広報委員会＞ホームページをはじめとして、社会貢献委員会との連携等によって様々な活動を企画し、本学術集会においても広報を行っている。
- ＜若手研究推進委員会＞今期から新しく独立した委員会であり、ホームページやメーリングリストを通じて、若手研究者と情報共有を進めている。
- ＜災害看護支援事業専門委員会＞今年度で委員会としての助成を中心とした活動に区切りをつけ、今後についてJANAと協議していく方向である。
- ＜利益相反委員会＞和文誌および英文誌への投稿者、学術集会の発表者、本会役員等について、学会としての利益相反への対応について検討し指針等を作成した。
- ＜研究倫理審査委員会＞1件の申請があり、審査を行った。
- ＜他機関との連携活動＞日本看護系学会協議会、看護系学会等社会保険連合、日本学術会議、その他の機関との連携活動を行っている。
- ＜選挙管理委員会＞今年は役員選出があり、そのための活動を行った。

【質疑応答】 質問はなかった。

VI. 審議事項

第1号議案 平成28年度事業計画案の承認

議案書（p18～20）に基づき、以下の事業計画案の説明と審議があった。

1) 第36回日本看護科学学会学術集会

日時：平成28年12月10日（土）・11日（日） 場所：東京国際フォーラム

岡谷恵子学術集会会長のもと開催予定。

2) 第37回日本看護科学学会学術集会

吉沢豊予学術集会会長のもと開催予定。日時・場所は未定。

3) 第38回日本看護科学学会学術集会

後程、第3号議案にて審議する。

4) 和文誌の発行

【和文誌編集委員会】 <山本理事>

日本看護科学会誌第36巻を発行する。査読システムのガイドラインを新しくする予定であり、学術集会2日目の交流集会でも紹介する。査読システムをScholar One Manuscriptsというシステムに変更し、効果的な運用と投稿論文の質向上をはかる。学会誌への投稿を促進し、論文数の増加をはかる。和文誌編集委員や査読者の活動を支援する教育プログラムなども引き続き考えていく。

5) 英文誌の発行

【英文誌編集委員会】 <グレッグ理事>

Japan Journal of Nursing Science vol.13をオンラインで発行する。JJNSセミナーを東京で開催する予定（詳細未定）である。JJNSプロモーション活動として、今年は受賞論文のフリーアクセス化を行った。来年も実施する方向である。その他、学術集会でもJJNSのPRをしていく。昨年から実施している若手研究者支援事業は来年も継続する予定である。

6) 看護学学術振興対策

(1) 看護学学術用語の検討

【看護学学術用語検討委員会】 <高田理事>

前期の委員会で、新規用語の定義やメンテナンスの仕組みを考えていきたいとしていたが、継続的な検討に入る前に、現時点である程度完成形になっている100語の用語集の系統化ができないかということを考えている。看護学学術用語・看護行為用語について会員の意見を伺うため、次年度は会員へのWeb調査を実施したい。

(2) 国際活動の推進

【国際活動推進委員会】 <中山理事>

世界看護科学学会（WANS）の事務局を継続している。平成27年度にドイツで学術集会を開催したため、次は平成29年度にタイ国で開催予定の第5回学術集会の準備をしている。

WANSの理事長を南裕子先生が継続する方向で、現在メールで確認中（理事会が成立しなかったため）である。タイで開催する第5回の学術集会が10年目にあたるため、次の10年を見越したWANSの組織のあり方を考える必要がある。また、看護学のグローバルスタンダードの検討のため、「看護系大学院教育のグローバル化に関する状況調査」を送付したところである、後日ご確認いただきたい。JANSのホームページの異文化看護データベースの更新については、国際看護学を専攻する方々の力を結集して、データベースを随時更新する方法について検討していく。

(3) 看護倫理の検討と啓発

【看護倫理検討委員会】 <井上理事より代理報告>

研究倫理指針等の改正に伴う研究活動の実態調査を予定している。看護学が関連する倫理的
社会事象に対する情報収集と対応案を検討する。

【研究倫理審査委員会】　＜井上理事＞

研究者の所属がない場合あるいは所属施設に研究倫理審査委員会がない場合について、申請
があり次第、倫理審査を実施している。その他、研究倫理審査にかかわる事項の検討をする。

【利益相反委員会】　＜吉沢理事＞

今年度から常置委員会として設置された。今年度は試行期間として、役員や委員会の委員に、
COIの開示を求めた。28年度から本格化する予定で、来月より和文誌、英文誌とも投稿の際に
COIの開示が必要となるため投稿規程を確認してもらいたい。COI申請フォームは、和文誌の
場合は本委員会で作成したもの、英文誌はINTERNATIONAL COMMITTEE of MEDICAL
JOURNAL EDITORSのフォームを使用する。第36回学術集会から、学術集会での発表につ
いてもCOIの開示が必要となるため、演題登録開始までに方法等について提示する。

(4) 研究成果の蓄積と活用

【研究・学術情報委員会】　＜酒井理事＞

看護における優先研究課題設定を目的とした情報収集体制の整備と、会員・一般社会・学術団
体・行政それぞれに向けた情報発信体制の整備を行う。若手研究推進委員会と連携してJANS
セミナーを継続して開催していく。

7) 学術研究論文の表彰

【表彰論文選考委員会】　＜真田理事＞

表彰候補論文の採点を社員・役員の先生方に依頼しており、今回の採点の回収率は61.3%で
あった。集計結果に基づき、優秀賞2編、奨励賞2編を決定した（議案書 p 14）。次年度も、採
点の回収率60%～70%を維持したい。また、Web上で採点結果を送れるようになると回収率も
上がるのではないかと考えている。

8) 学会組織の強化・発展

(1) 若手研究推進委員会の活動の推進

【若手研究推進委員会】　＜西村理事＞

今年度より常置委員会として設置された。今回の学術集会でも2日目に交流集会を予定して
いるが、今後も学術集会での交流集会を定例的に企画運営する。日本学術会議若手アカデミー
と交流を図るなど、国内外の多様な学問分野における若手研究者との積極的な交流をはかる。
「若手の会」専用のホームページを立ち上げた。また、今後「若手の会」の活動を牽引するエ
リア・コーディネーターを育成し、各地域の若手の方々との交流を積極的に進めていく。「若
手の会」専用のメーリングリストがあり、現在404名が参加し、これまでに約90件の投稿があ
り、徐々に情報交換や相互交流を進めている。現在、若手研究者向けの研修ニーズ調査を準備
しており、その結果をもとに研修を企画する。

(2) 事務所体制の整備

【総務委員会】　＜麻原理事＞

学会活動を効果的に行うために、事務所の職員体制の整備について検討している。就業規則
の見直し、職員の給与体制、評価・査定制度の導入等について引き続き検討する。

9) 社会貢献活動

【社会貢献委員会】　＜吉沢理事＞

学術集会の市民フォーラム、ナーシング・サイエンス・カフェを次回も開催したい。JANS
としての社会貢献のあり方についても改めて検討していく。

10) 広報活動

【広報委員会】 <勝原理事>

学会の会員以外にも本学会の活動を理解してもらうために、学会の広報媒体の維持管理等を適切に行う。WANSに関連した広報活動も適宜行う。学術集会の広報も積極的に行う。

11) 他機関との連携活動 <井上副理事長>

【日本看護系学会協議会】 <井上副理事長>

学術集会2日目の公開シンポジウムを継続して開催している。災害看護支援事業については、今後の活動方針を検討していく。

【日本学術会議】 <井上副理事長>

これまでの連携強化を維持発展させる。日本学術会議からのニュース等を役員に配信しているが、必要時ホームページ等への掲載もしていく。

【看護系学会等社会保険連合】 <西垣理事>

看保連の委員として研究・学術情報委員会から委員を出す形で連携をしている。看保連ではこれまで医療技術検討委員会に所属していたが、今回から診療報酬のあり方委員会の所属となった。当面は医療保険・介護保険のダブル改定に向けて診療報酬のあり方をJANSとして提言していく。

12) 理事候補者選挙

【選挙管理委員会】 <麻原理事>

平成26年度に代議員選挙および役員候補者選挙を実施したため、28年度は役員候補者選挙のみをWeb選挙を用いて行う予定。

【質疑応答】

質問（荒木社員）：看護系学会等社会保険連合との連携について、所属する委員会が医療技術検討委員会から診療報酬のあり方委員会に変更になったというご説明があったが、今年度から両方とも参加できると聞いていた。後者のみとなった理由は何か。

回答（西垣理事）：委員会の所属については、これまで他機関との連携活動を担当していた岡谷恵子氏と調整中であり、今後、最終的に決定する予定である。

質問（山本社員）：若手研究推進について、若手の研究を促進する活動や、システムティックにエビデンスを作るプロセスに若手の参加を促すシステムを作るなどの活動もあるとよいのではないか。

回答（西村理事）：今年度より常置委員会になったため、多くのご提案をいただいて今後の活動に反映させたい。研究については、今後ニーズ調査を行い、研修を企画する予定だが、いただいたご意見を参考にして、積極的に若手の方々が活動できる計画を立てていきたい。また、主に研究活動の推進を考えているが、その他に将来の看護学のあり方や本学会のあり方などについて、若手の方々の意見を集約し提言していくという活動もあるのではないかと、という意見もあり検討する予定である。

事業計画案は原案通り、満場一致で承認された。

第2号議案 平成28年度予算案の承認 <村嶋理事>

議案書（p21～23）に基づき、以下の審議があった。

p21～23で平成28年度の予算案を提示しているが、平成27年度との差額が大きいものについては備考欄に※をつけ、その理由についてp23に説明を載せた。

- I. 事業活動収支の部では、事業活動収入合計147,564,000円、事業活動支出合計144,532,000円、事業活動収支差額は3,032,000円の黒字を見込んでいる。事業費支出の英文誌編集費支出についてはトルコやイランなど海外からの投稿数増加に伴い費用が増加しているが、編集委託業者との交渉や査読方法の変更等により、この範囲の増加に抑えられた経緯がある。学術集会費支出は、次年度東京で開催されるため会場費は高くなるが、プログラム集を作成しないため送料と印刷費が減少となる（p22の※15の左の「プログラム送料含む」「プログラム印刷含む」は誤植のため削除）。管理費支出の給料手当支出については、事務所職員の賞与増額の他に、国家公務員の給与表を使うことも検討中。資格喪失者会費支出は、会費未納のまま退会する人が増えているため、会計と総務で相談しリマインドをするなどの対策を実施するが、これまでの実績で2,000,000円計上している。
- II. 投資活動収支は、投資活動収入合計1,145,000円、投資活動支出合計1,905,000円、収支差額△760,000円となっている。財務活動収支はなし。予備費支出3,000,000円。以上により、当期収支差額△728,000円となるが、予備費300万円を入れているため許容範囲と考える。議案書のp24～25は内閣府に提出する収支予算書で、公益目的事業、収益事業、法人会計に区分している。会費収入は公益目的と法人会計で50%ずつの配分率で予算化した。経常費用は公益目的事業で113,988,765円、収益事業で1,950,228円である。収益事業にあたる広告販売の経常費用が1,588,290円で増減額8,769,710円の黒字になっているが、公益事業が△22,186,765円の赤字になっているため、他会計振替額として8,397,134円を収益事業から公益事業に補填ができる。これにより収益事業については法人税・事業税の課税はなく都民税均等割70,000円のみを見積もっている。

【質疑応答】 質問はなかった。

予算案は原案通り、満場一致で承認された。

第3号議案 第38回日本看護科学学会学術集会会長の承認 <萱間理事長>

議案書(p26)に基づき、以下の審議があった。

第38回日本看護科学学会学術集会会長として佐伯由香氏（愛媛大学）が推薦され、満場一致で承認された。

その他 <萱間理事長>

会場からの意見と質問を受け付けた。

名誉会員の前原先生より、本学会がますます発展的な事業をしているということに対し、感謝と敬意を表したいとの言葉をいただいた。

その他以下の質疑応答があった。

【質疑応答】

質問（小山社員）：今年の学術集会の準備をしていて気が付いたが、運営マニュアルに学会総会では全部のドアを閉めると書いてある。しかし、学会が公益社団法人になったため、社員総会と学会総会の役割を分け、学会総会はオープンにするものではないかと

考える。

回答（萱間理事長）：公益社団法人となった後とその前とでは総会の運営の方法が異なり、また学術集会も学会と統合して収支に入れるなどかなり変化している。学術集会会長は詳細なマニュアルを引き継いで運営をしてくださっているが、ご指摘いただいた点を含め、実態に合わない内容も見受けられる。今後、学術集会の運営マニュアルについても、実態と合うものにするように見直していきたい。その他にもぜひご指摘いただきたい。

（井上副理事長）：議決権のある人数を正確に把握するために行われてきたものであって、その場をクローズにするという意味合いではないと思われる。

質問（南監事）：学会の組織は変わってきているが、学会を支えているのは会員であり、学術集会は参加費を払っている会員を含めた参加者が支えている。だから学術集会会長としては全てをオープンにしたいという気持ちはよく理解できる。しかし、会員であることのメリットも考える必要がある。公益法人法では社員総会ですべてを決めることができ、学会総会で大きな決議をすることは求められていないが、学会の在り方や学会の未来については会員に委ねられる場があるべきだと考える。組織としての学会の在り方については、今後議論いただきたい。

回答（萱間理事長）：学会総会の進め方を変えることも含めて、今後議論をしていきたい。社員総会の進行についても、例年は理事会報告や事業報告、決算報告などを行ってから、事業計画や予算案を説明するという進め方だったが、今回、報告は6月の社員総会と重複する部分も多いため簡単な説明のみとし、事業計画と予算案を中心に説明をした。この進行の仕方についても意見をいただきたい。明日（5日）の学会総会では、パワーポイントを使って、各委員会の報告をする予定である。明日の学会総会の進行とも比べていただき、社員総会の進行について、後日意見を出していただきたい。

質問（大池社員）：会費の未納者が多いという報告があったが、直接関係しているかどうかはわからないが、実践の場で働いている人から「日本看護科学学会に参加しようという興味がない」という声を聞く。研究の質が上がることも大切だが、研究の成果によって実践がどのように変化したか、この研究はこんなふうに使えろといったことを交流集会などで取り上げたりすると関心が高まるのではないか。

回答（研究・学術情報委員会・酒井理事）：実績を積むために、発表のときだけ名前を連ねてその後退会するという形で活用する方が増えていることを考えると、若手の研究者の方々が日本看護科学学会に入会していることで役に立つ、成長できるという活動をコアにすることによって、長期的には会員が増えていくのではないか。会費未納が増えていくことについては、セミナー参加の際のメリット等も発信できればと考えている。

（若手研究推進委員・西村理事）：今学会の若手の交流会は、若手のキャリアについて考える企画になっているため、ぜひご参加いただきたい。また臨床と研究がどのように結びつくのかという点については、今後の企画の参考にさせていただきたい。

質問（掛田社員）：臨床の介入研究の場合は、研究計画をWebなどで広く公表し遂行していくというのが医学分野のスタンダードになっている。本学会が看護のアンブレラ学会と

いうことであれば、看護独自の臨床研究の登録システムを持つというのはいかがか。COIや研究倫理などについては、どれか1つを限定的に取り組むよりは包括的に考えていく必要がある。看護界として登録システムがあることで、他の研究者がやっていることに関心を持つきっかけになるのではないかと考え、発言させていただいた。

回答（研究・学術情報委員会・酒井理事）：今年度から若手育成の役割が独立したため、ご提案のような仕組みについての検討を開始していく方向である。事業計画における優先順位はあるが、登録システムについても可能性を検討し、進めていくルールを作りたい。

以上で、会場からの質疑応答が終了した。

VII.閉 会

閉会時、全代議員数264名の内、会場出席社員数94名、有効委任状94名、総計188名であることが報告された。

以上をもって、平成27年12月社員総会が閉会した。

平成28年（2016年）2月 3日

議 長 萱間 真美 ⑩

議事録署名人 秋元 典子 ⑩

議事録署名人 森 菊子 ⑩

⑩

⑩

⑩

公益社団法人日本看護科学学会 役員・社員

(平成 27 年 10 月 31 日現在)

理 事 長 萱間 真美

副理事長 井上 智子

第 35 回学術集会会長 第 36 回学術集会会長 第 37 回学術集会会長

小山真理子

岡谷 恵子

吉沢豊予子

理 事：麻原きよみ、勝原裕美子、鎌倉やよい、グレッグ美鈴、酒井 郁子、
真田 弘美、高田 早苗、中山 洋子、西垣 昌和、西村 ユミ、
村嶋 幸代、山本 則子、吉沢豊予子

監 事：阿曾 洋子、南 裕子

名誉会員：飯田澄美子、稲岡 文昭、氏家 幸子、薄井 坦子、金川 克子、兼松百合子、
川嶋みどり、小玉香津子、中島紀恵子、林 滋子、樋口 康子、日野原重明、
前原 澄子、松野かほる、山崎 智子

賛助会員：(株)医学書院、(株)南江堂、(株)日本看護協会出版会、ヌーヴェルヒロカワ、
(株)へるす出版

(以上、五十音順)

社員

【北海道】

石垣 靖子
稲葉 佳江
大日向 輝美
河口 てる子
河原田まり子
荃津 智子
中村 恵子
松浦 和代
三国 久美
矢野 理香
山田 律子
良村 貞子

【東北】

朝倉 京子
一戸 とも子
遠藤 芳子
小野 幸子
工藤 せい子
佐藤 富美子
塩飽 仁
武田 淳子
武田 利明
原 玲子
布施 淳子
古瀬 みどり
眞壁 玲子
宮下 光令
吉沢 豊予子
吉田 俊子

【関東 A】

飯田 苗恵
岩永 喜久子
上野 恭子
内田 陽子
角田 直枝
金子 昌子
加納 尚美
川口 孝泰
神田 清子
近藤 浩子
佐藤 正美
佐藤 由美
鈴木 純恵
中村 美鈴
成田 伸
春山 早苗

廣瀬 規代美
福島 道子
森 千鶴
横山 京子
吉田 久美子

【関東 B】

青木 きよ子
荒木 暁子
荒木田美香子
石井 邦子
石橋 みゆき
太田 喜久子
大塚 眞理子
叶谷 由佳
黒田 久美子
黒田 裕子
酒井 郁子
坂上 明子
佐藤 紀子
佐藤 まゆみ
諏訪 さゆり
田高 悦子
谷本 眞理子
手島 恵
長江 弘子
野地 有子
正木 治恵
眞嶋 朋子
増島 麻里子
宮崎 美砂子
宮脇 美保子
森 恵美
吉田 千文

【東京 A】

麻原 きよみ
泉 キヨ子
井上 智子
井部 俊子
及川 郁子
上別府 圭子
亀井 智子
萱間 眞美
齋藤 やよい
眞田 弘美
武村 雪絵
田代 順子
永田 智子

西村 ユミ
深堀 浩樹
堀内 成子
前田 樹海
丸 光恵

森田 夏実
山本 則子

【東京 B】

秋山 正子
飯野 京子
柏木 公一
香春 知永
川野 雅資
北 素子
洪 愛子
佐々木 幾美
佐藤 紀子
志自岐 康子
高田 早苗
武田 祐子
鶴田 恵子
野末 聖香
福井 トシ子
本庄 恵子
宮子 あずさ
守田 美奈子
谷津 裕子
吉田 みつ子
綿貫 成明

【甲信越】

浅川 和美
阿部 正子
遠藤 みどり
小林 たつ子
小林 康江
定方 美恵子
清水 嘉子
水野 恵理子
渡邊 タミ子
渡辺 みどり

【北陸】

稲垣 美智子
上野 栄一
川島 和代
紺家 千津子
須釜 淳子
平松 知子

牧野 智恵

【東海】

會田 信子
足立 はるゑ
足立 久子
天野 瑞枝
池松 裕子
岩瀬 信夫
太田 勝正
大津 廣子
大西 文子
岡田 由香
門間 晶子
鎌倉 やよい
紙屋 克子
北山 三津子
黒江 ゆり子
小島 操子
小松 万喜子
杉浦 太一
鈴木 みずえ
多喜田 恵子
深田 順子
古田 加代子
本田 育美
村本 淳子
百瀬 由美子
柳澤 理子
山内 豊明
山田 紀代美

【近畿 A】

青山 ヒフミ
阿曾 洋子
荒尾 晴恵
安藤 幸子
上野 昌江
江川 幸二
小笠原 知枝
北村 愛子
工藤 美子
グレッグ美鈴
河野 あゆみ
坂下 玲子
佐藤 禮子
清水 安子
鈴木 久美
鈴木 志津枝

高見沢恵美子
田中 京子
泊 祐子
檜木野 裕美
簀持 知恵子
早川 和生
林 優子
藤原 千恵子
法橋 尚宏
増野 園恵
町浦 美智子
松田 宣子
森 菊子
山本 あい子

【近畿 B】

江川 隆子
遠藤 俊子
岡山 寧子
桂 敏樹
我部山キヨ子
河原 宣子
北島 謙吾
小板橋喜久代
田村 恵子
中木 高夫
西田 直子
任 和子
野村 陽子
若村 智子

【中国・四国】

秋元 典子
池添 志乃
植田 喜久子
岡本 玲子
雄西 智恵美
掛田 崇寛
國方 弘子
小山 眞理子
佐伯 由香
島内 節
新道 幸恵
祖父江 育子
竹崎 久美子
田中 マキ子
近田 敬子
津島 ひろ江
時長 美希

中西 純子
中野 綾美
中山 洋子
西田 真寿美
乗松 貞子
深井 喜代子
藤田 佐和
保科 英子
南 裕子
宮腰 由紀子
宮下 美香
森本 美智子
森山 美知子
山勢 博彰

【九州・沖縄】

宇佐美しおり
宇都 由美子
浦田 秀子
大池 美也子
岡崎 美智子
奥 祥子
小野 ミツ
嘉手苺 英子
木下 由美子
金城 芳秀
国府 浩子
佐藤 香代
正野 逸子
田中 美智子
堤 由美子
寺町 芳子
中尾 久子
鳩野 洋子
東 サトエ
日高 艶子
藤崎 郁
藤田 君支
前田 ひとみ
松浦 賢長
松尾 ミヨ子
三重野 英子
村嶋 幸代

以上、264 名
地区別
五十音順

総務報告

1. 会員推移（平成27年4月1日～平成27年10月31日）

1) 正会員数増減

①平成27年4月1日正会員数
7,528名＝平成27年3月31日正会員数 8,035名 － 平成27年度資格喪失者 507名
(自主退会204名、会費未納303名)

②平成27年度の入会者
808名＝新規入会728名 ＋ 再入会80名

③平成27年度の死亡喪失者 2名

④会員区分の変更 2名 (正会員から名誉会員)

2) 賛助会員増減 なし

3) 名誉会員増減

平成27年度承認 増 3名 金川 克子 川嶋みどり 前原 澄子
減 1名 中西 睦子

4) 平成27年10月31日現在 会員数

正会員 8,332

名誉会員 15

賛助会員 5
会員総数 8,352

山崎 智子 松野かほる 氏家 幸子 兼松百合子 林 滋子
飯田澄美子 日野原重明 稲岡 文昭 樋口 康子 薄井 坦子
中島紀恵子 小玉香津子 金川 克子 川嶋みどり 前原 澄子
(株) 医学書院 (株) へるす出版 (株) 南江堂
(株) 日本看護協会出版会 (有) ヌーヴェルヒロカワ

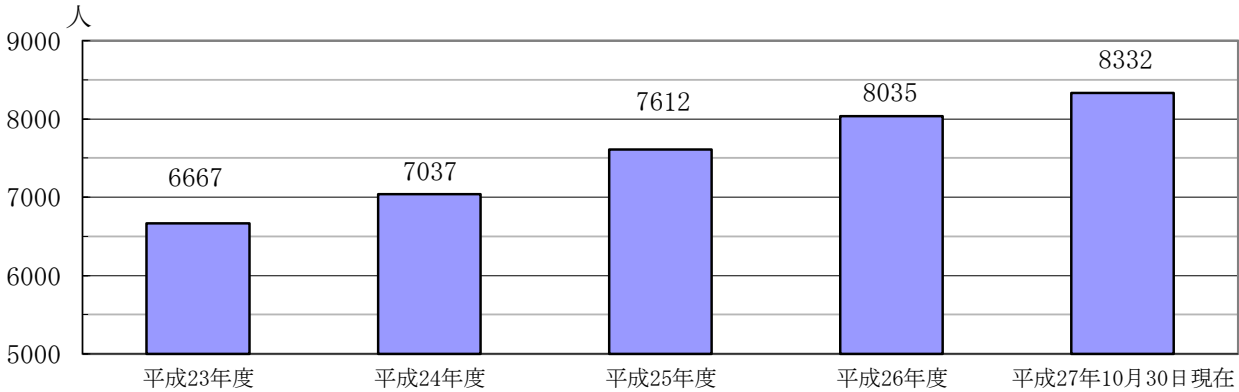
2. 地区別正会員数

地区	都道府県	正会員数	地区	都道府県	正会員数	地区	都道府県	正会員数	
北海道 361	北海道	361	北 陸	富 山	49	九州・沖縄	福 岡	420	
				石 川	117		佐 賀	46	
東 北 494	青 森	131	東 海	福 井	59		長 崎	55	
				岩 手	60		熊 本	83	
				宮 城	137		大 分	59	
				秋 田	62		宮 崎	62	
				山 形	67		鹿 児 島	47	
				福 島	37		沖 縄	98	
関 東 A	茨 城	116	近 畿 A	大 阪	485	宛先不明者		42	
	栃 木	104	近 畿 B	兵 庫	459	合 計		8,332	
	群 馬	156		滋 賀	121				
	埼 玉	266		京 都	223				
関 東 B	千 葉	357	中国・四国	奈 良	87				
東 京 A	神 奈 川	509		和 歌 山	26				
	※1	600		鳥 取	31				
東 京 B	※2	655		島 根	61				
				岡 山	177				
甲 信 越	新 潟	103		広 島	267				
	長 野	107		山 口	57				
	山 梨	83		徳 島	70				
			961	香 川	77				
				愛 媛	64				
					高 知	157			

※1 千代田区、中央区、港区、台東区、文京区、北区、荒川区、足立区、葛飾区、墨田区、江戸川区、江東区、品川区、大田区、島しょ、海外

※2 渋谷区、目黒区、世田谷区、新宿区、中野区、杉並区、豊島区、板橋区、練馬区、多摩地域

3. 正会員数の推移（年度別）



公益社団法人日本看護科学学会 理事会報告

(平成 27 年 7 月 25 日～平成 27 年 12 月 4 日)

平成 27 年度臨時理事会

日 時：平成 27 年 7 月 25 日（土） 13：00～15：10

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）

出席者：理事 10 名、監事 2 名、第 36 回学術集会会長

〈報告事項〉

- ・ 学術振興事業検討委員会報告書

〈審議事項〉

1. 第 36 回日本看護科学学会学術集会（JANS36）について
2. 今後の理事会・平成 28 年 6 月定例社員総会日程について
3. 定款施行細則変更案の承認
4. 会務分掌案および委員の承認
5. 平成 27 年度予算案の確認（各委員会予算を含む）
6. 第 34 回日本看護科学学会学術集会（JANS34）における演題取り下げ事例に関する対応策について
7. 各委員会からの報告および審議事項
 - 1) 総務委員会
 - 2) 和文誌編集委員会
 - 3) 英文誌編集委員会
 - 4) 研究・学術情報委員会（第 6 回 JANS セミナーの報告含む）
 - 5) 国際活動推進委員会
 - 6) 看護学学術用語検討委員会
 - 7) 看護倫理検討委員会
 - 8) 社会貢献委員会
 - 9) 表彰論文選考委員会
 - 10) 広報委員会
 - 11) 研究倫理審査委員会
 - 12) 災害看護支援事業専門委員会
 - 13) 若手研究推進委員会

14) 利益相反委員会

15) 他団体との連携について

- ・ 日本看護系学会協議会（医療事故調査等支援団体に関する申し出について）
- ・ 日本学術会議
- ・ 看護系学会等社会保険連合（看保連）

8. 入会希望者の承認

9. その他

平成 27 年度第 3 回理事会

日 時：平成 27 年 9 月 20 日（日） 13：00～16：30

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）

出席者：理事 10 名、監事 2 名、第 35 回学術集会会長、第 36 回学術集会会長

〈報告事項〉

- ・ 平成 27 年度第 2 回理事会議事録
- ・ 平成 27 年度臨時理事会議事録
- ・ 平成 27 年度 6 月定例社員総会議事録

〈審議事項〉

1. 第 35 回日本看護科学学会学術集会（JANS35）の準備状況
2. 第 36 回日本看護科学学会学術集会（JANS36）の準備状況
3. 第 38 回日本看護科学学会学術集会（JANS38）の候補者選出
4. 12 月社員総会の議事次第（案）と欠席者の議決権行使方法についての確認
5. 第 35 回学会総会の議事次第（案）の確認
6. JANS34 における演題取り下げ事例への対応について
7. 各委員会からの報告および審議事項
8. 世界看護科学学会（WANS）理事会出席者について
9. 「看護研究」誌特集号について
10. 入会希望者の承認
11. その他

〈連絡事項〉

1. 委員会活動報告および活動計画・予算案の提出について
2. JANS35 学術集会開催時期の各会議、宿泊等について
3. 事務所警備システム（ALSOK）の操作マニュアル

平成 27 年度第 4 回理事会

日 時：平成 27 年 10 月 25 日（日） 13：00～17：00

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）

出席者：理事 14 名、監事 1 名、第 36 回学術集会会長

〈報告事項〉

平成 27 年度第 3 回理事会議事録（案）

〈審議事項〉

1. 第 35 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
2. 第 36 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
3. 第 38 回日本看護科学学会学術集会会長の承認
4. 各委員会からの報告および審議事項
5. 各委員会における平成 28 年度事業計画と平成 28 年度予算案
6. 12 月社員総会の議案の承認および進行分担表の確認
 - 1) 社員総会の開催について
 - 2) 平成 28 年度事業計画案の承認
 - 3) 平成 28 年度予算案の承認
7. 第 35 回学会総会の資料（案）および進行分担表の確認
8. 入会希望者の承認
9. その他

〈連絡事項〉

○ JANS35 関連出張／出欠・宿泊希望の一覧第 35 回学術集会会長

平成 27 年度第 5 回理事会

日 時：平成 27 年 12 月 4 日（金） 15：00～17：00

場 所：リーガロイヤルホテル広島 4 階 竹の間 （広島市中区基町 6-78）

出席者：理事 14 名、監事 2 名、第 36 回学術集会会長

〈確認事項〉

- ・ 平成 27 年度第 4 回理事会議事録（案）
- ・ 平成 28 年度各委員会事業計画・予算（確定版）

〈審議事項〉

1. 第36回日本看護科学学会学術集会の準備状況
「協賛企業広告の掲載方法について」
2. 平成 27 年 12 月社員総会議案の承認および進行分担表の確認
 - ・ 平成 28 年度予算案の承認
3. 第 35 回学会総会資料および進行分担表の確認
4. 各委員からの審議事項
5. 入会希望者の承認
6. その他

公益社団法人日本看護科学学会 平成27年度委員会名簿および分掌事項

委員会	役職	氏 名	会 務 分 掌
総務	委員長	麻原 きよみ 西村 ユミ 深堀 浩樹	・ 会員管理 ・ 入会審査 ・ 学会事務所の運営（総務会に提案し検討）
和文誌編集	委員長	山本 則子 吉沢 豊予子 浅野 みどり 荒木 暁子 和泉 比佐子 牛久保美津子 内田 陽子 遠藤 淑美 大久保 暢子 落合 亮太 小野 智美 片岡 弥恵子 河野 あゆみ 佐伯 圭一郎 佐伯 由香 酒井 明子 佐藤 紀子 清水 安子 鈴木 みずえ 田中 美智子 長谷川 真澄 春名 めぐみ 眞嶋 朋子 三木 明子 宮下 光令 吉田 俊子 宮本 有紀	・ 学会誌（オンライン版）の出版 ・ 学会誌への投稿の促進 ・ 機関リポジトリへの対応 ・ 査読者の質向上を目的としたセミナー等の開催 ・ 表彰論文選考への参画 ・ 投稿査読システム変更についての会員への周知
	会計	宮本 有紀	
英文誌編集	編集長 委員長	William L. Holzemer グレッグ美鈴 西垣 昌和 池田 理恵 石川 陽子 石原 逸子 和泉 成子 梅田 麻希 岡田 彩子 尾崎 章子 北岡 和代 佐々木美奈子 鈴木 美穂 田村 恵子 永田 智子 中村 美鈴 野口 眞弓 深井 喜代子 法橋 尚宏 堀内 成子 前田 ひとみ 丸 光恵 丸山 昭子 森 恵子 山川 みやえ 山崎 あけみ 江藤 宏美	・ 英文誌（オンライン版）の出版 ・ 投稿論文促進のための活動 ・ ジャーナルの認知度・評価向上のための活動 ・ 若手研究者支援事業の推進 ・ 表彰論文選考への参画 ・ 査読システムの整備
	会計	江藤 宏美	
研究・学術情報	委員長	酒井 郁子 西垣 昌和 荒木 暁子 石橋 みゆき 大久保 暢子 大田 えりか 小池 智子 齋藤 訓子 田高 悦子 深堀 浩樹	・ 内外の看護学研究に関する情報の収集、整理、発信 ・ 研究成果が診療報酬に適切に反映できるような活動の推進
	会計	深堀 浩樹	

委員会	役職	氏 名	会 務 分 掌
国際活動推進	委員長	中山 洋子 中 南 裕子 近 藤 暁子 近 藤 麻理 杉 本 敬子 田 代 順子 成 瀬 和子 柳 澤 理子 神 原 咲子	・国際的な看護学研究機関とのネットワークの構築 ・世界看護科学学会事務局業務
	会 計		
看護学 語検討 学術用	委員長	高 田 早苗 大 森 純子 小坂 橋喜久代 佐藤 和佳子 野嶋 佐由美 川原 由佳里	・看護学術用語に関する現状と展望の検討 ・看護学術用語の維持管理システム構築に向けた検討
	会 計		
看護倫理 検 討	委員長	鎌倉 やよい 會 田 信子 太 田 勝正 鶴 若 麻理 宮 下 美香 百瀬 由美子 飛田 伊都子	・看護学が関連する研究・教育・臨床における倫理的課題の整理および即時的対応 ・研究者のモラル向上に向けた活動 ・看護学が関連する倫理的社会事象に対する情報収集・提供と、学会としての対応案の検討と社会に向けた見解の発信 ・研究倫理審査における異議申し立てに関する審議
	会 計		
社会 貢 献	委員長	吉沢 豊予子 天 野 雅美 尾 崎 章子 布 施 淳子 前 田 樹海 宮 下 美香 山 村 美枝 中 村 康香	・一般市民に向けた活動 ・看護学を通じた社会への貢献およびその方策の検討・普及 ・学術集会開催時の他に社会貢献の実績を残す （市民公開講座、出版等） ・次世代の育成事業
	会 計		
表彰 論 文 選 考	委員長	真 田 弘美 山 本 則子 グレッグ美鈴 須 釜 淳子 仲上 豪二朗 宮 下 光令 山 勢 博彰 竹 内 朋子	・和文誌・英文誌投稿論文からの表彰候補論文選考作業の円滑な運営 ・学会としての表彰論文の推薦 ・看護学への功績（学問の体系化等）のある人への表彰についての検討 ・他団体からの表彰に該当する候補者の推薦
	会 計		
広 報	委員長	勝原 裕美子 大坂 和可子 北 村 愛子 本 田 順子 大 山 裕美子	・ホームページ（JANS/WANS）の維持・管理・改善 ・学会活動の広報（委員会成果物のHP掲載等） ・学術集会の広報（プレスリリース等） ・WANS本部・WANS学術集会の広報 ・学術集会の記録
	会 計		
若 手 研 究 推 進	委員長	西 村 ユミ 岩 國 亜紀子 大 澤 絵里 鳥 本 靖子 濱 吉 美穂 丸 尾 智実 綿 貫 成明 坂 井 志織	・日本学術会議若手アカデミーをはじめ、国内外の多学問分野の若手研究者と積極的な交流を図り、将来的な看護学の発展への貢献を目指す ・学術集会の交流集会を定期的に企画・運営し、若手の研究活動の促進に努める ・若手研究者向けの研修に関するニーズ把握、及び学術情報や活動を周知する方法を検討する
	会 計		
災 害 事 業 看 護 専 門 支 援	委員長	中 山 洋子 井 上 智子 麻原 きよみ 吉沢 豊予子 高 田 早苗 山 本 あい子	・災害看護支援金の申請者等の選定の審査およびフォローを行う ・日本看護系学会協議会等と話し合い、災害看護活動支援のための募金および支援金の支給、災害看護支援事業専門委員会は、平成27年度をもって終了する ・JANSとしての災害看護活動のあり方について今後の方向性を検討する
	JANA役員 JANA役員		
利 益 相 反	委員長	吉沢 豊予子 麻原 きよみ 跡 上 富美 稲 垣 美智子 法 橋 尚宏	・役員等の潜在的利益相反判定を実施し該当の案件についてマネジメント方法を判定し、不適切な事象が起こらないようにマネジメントする。また、本会が行うすべての事業で、重大なCOI状態が生じた場合は、利益相反委員会が諮問し、答申に基づき改善措置をとる
研 究 倫 理 審 査	委員長	井 上 智子	・学会員からの申請で、原則として学会員が研究筆頭者であり、本学会で審査することが必要であるとみなした場合に、申請された人を対象とした看護研究が、倫理的配慮のもとに行われるかどうかを審査する
	副委員長 外部委員 外部委員 外部委員	武 田 祐子 香 春 知永 限 本 邦彦 戸 塚 実緒 友 納 理緒	
選 挙 管 理	委員長	高 木 廣文	・理事会からの委嘱により組織し、代議員および役員候補者選挙を行う
	副委員長 書記 庶 務 庶 務 補 佐	野 口 眞弓 二 宮 啓子 岡 美智代 桑 名 佳代子	

委員会活動報告

1) 総務委員会

- ・ 入会審査の理事会報告、及び会員のデータ管理を行っている。会員管理についてはオンラインシステムを使用しており、会員自身のマイページ利用による更新が平成27年4月1日～平成27年10月31日までの間1,690件と順調に稼働している。
- ・ ホームページや登録されている会員のメールアドレスへの配信により、会員への迅速な情報伝達を行った。なお、現メールアドレスの登録状況は8,179件（全会員の95%）であり、内 約400件がメールの到着が不確定である。
- ・ 平成27年10月31日現在の正会員数は、8,332名である。
- ・ 学会事務所職員の勤務内容の把握、調整、面談を適宜行った。月1・2回、事務所にて、業務遂行状況の確認および相談を行った。
- ・ 定例社員総会準備を行った。
- ・ 各理事会、社員総会の議事の記録を担当した。
- ・ 事務所運営の効率化・適正化を図るため、事務所職員体制、人事評価や給与体系、および研修体制等について検討した。

2) 和文誌編集委員会

- ・ 理事会の交替に伴い、平成27年7月より編集委員長も交替し、新たな編集委員会（委員26名）を組織した。
- ・ 和文誌編集委員会を1回開催（平成27年6月20日）開催した。
- ・ 投稿論文編集・査読システム業者の変更に伴う打ち合わせを2回実施（平成27年8月4日、9月15日）した。
- ・ 投稿論文編集・査読システム業者を国際文献社から中西印刷に変更した。国際文献社での投稿受付を9月30日で終了し、中西印刷によるシステム運営が10月1日から開始されている。現在は移行時期として、電子メールによるオンライン投稿を運用している。オンライン投稿システムの本格的な始動は平成28年1月1日を予定している。

- ・ 平成 26 年度の投稿論文数は 70 論文で、56 論文(平成 23 年度)、63 論文 (平成 24 年度)、74 論文 (平成 25 年度) で推移している。
- ・ 表彰論文選考に参画した。
- ・ 査読システムガイドラインを改訂中である。
- ・ 第 35 回日本看護科学学会学術集会 (JANS35) で交流集会 (「著者をエンパワメントする査読コメントを書こう」) を実施予定である (12 月 6 日)。

3) 英文誌編集委員会

- ・ Holzemer 編集長が来日のもと、対面式の編集委員会を 1 回、TV 会議システムを用いた日本語での編集委員会を 1 回、スカイプによる小委員会を 3 回開催した。
- ・ Japan Journal of Nursing Science Vol.11, No.4、Vol.12, No.1～3 (9 月末の時点) をオンラインで発刊した。
- ・ 2014 年 11 月 2 日に啓発活動としての JJNS セミナー “Improving Your Success at Publishing in English 2014” を東京で開催した。参加者 184 名で好評であった。
- ・ 若手研究者支援事業として、1 編の助成対象論文を決定した。昨年度の助成対象論文 2 編のうち 1 編は JJNS に掲載された。
- ・ JJNS プロモーション活動の一環として、2014 年度の優秀賞および奨励賞を受賞した JJNS に掲載された論文各 1 編をフリーアクセスとした。
- ・ Optional open access (希望によるオープンアクセス化) が可能となるように投稿規程を改定した。
- ・ 2014 年度の impact factor は、0.388 であった (2015 年 6 月発表による)。

4) 研究・学術情報委員会

- ・ 第 6 回 JANS セミナー「責任ある研究行為 ―知っておきたい利益相反&オーサーシップ―」を開催した。
- ・ JANS 若手アカデミーを、「若手研究推進委員会」として常置委員会化した。
- ・ 看護系学会等社会保険連合(看保連)関連委員会、情報交換会に出席した。
- ・ 看護学における研究優先課題設定を目的とした情報収集・整理、および調査計画に着手した。
- ・ 第 7 回 JANS セミナー「エビデンスを統合する ―システムティックレビューとメタ統合―」(仮)

を企画している。

5) 国際活動推進委員会 （世界看護科学学会を含む）

- ・ 異文化データベースの見直しを行い、情報提供の枠組みや情報の更新・修正を行い、活用しやすいものにするための検討を行っている。
- ・ 看護学のグローバルスタンダードや国際看護学教育のあり方の検討のために、「看護系大学院教育のグローバル化」に関する状況調査」を11月～12月にかけて行うとともに、国際看護・国際保健に関わる会員のネットワークの構築を図っている。

（世界看護科学学会 World Academy of Nursing Science : WANS）

- ・ 第4回 WANS 学術集会（会長 Meyenburg-Altwarg, Iris）がドイツの Hannover において ENDA と共同で2015年10月14日から10月17日まで開催された。WANS 事務局として開催の支援を行うとともに、WANS 理事会を10月16日16:30から開催した。

6) 看護学学術用語検討委員会

- ・ 13期の委員会が8月から発足し、9月に開催した委員会で今期の活動方針について検討した。
 - ① 第9・10期に100語から成る「看護学を構成する重要な用語集」が出され、定義の仕方に若干のばらつきがあるものの、一応の完成形とみられる。ただ、アイウエオ順に並べられ、体系化がはらかれているわけではないことを確認した。
 - ② 新規用語の定義やメンテナンスの仕組み（前期委員会）の継続的検討に入る前に、用語の体系化・系統化を視野に入れた検討を進める必要があるのではないか。幾通りかあるが、用語（重要概念）の変化・発展について、研究動向をおさえながら系譜学的に明らかにすることを通して系統化を図るなど、今後の方向性を検討した。
 - ③ これまでの委員会活動による学術用語検討の成果物について学会員がどの程度知っているか、どの程度利用・活用されているか、学術用語検討に関する学会員のニーズは何か、等について、ウェブ調査を実施する。

7) 看護倫理検討委員会

- ・ 理事会の交替に伴い、平成 27 年 7 月より委員長が交替し、新たに看護倫理検討委員会（委員 7 名）を組織した。
- ・ 看護倫理検討委員会を 1 回開催し（平成 27 年 9 月 23 日）、平成 27・平成 28 年度方針及び事業案を以下のとおり検討した。
 - ① 社会で起きている倫理問題に対して即時的な対応を行い、学会としての見解を社会に向けて発信を継続すると共に、科学者の行動規範・不正行為に関する事項への対応や啓発等について検討する。
 - ② 「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」（2014 年 2 月 18 日）の改正、「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」（2014 年 8 月 26 日）及び「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（2014 年 12 月 22 日）の制定に伴い、研究者が研究活動においてどのように実行しているのかを調査し、結果を日本看護科学会誌へ論文投稿する。
 - ③ 調査結果に基づき、平成 28 年の第 36 回日本看護科学学会学術集会（JANS36）において交流集会を企画する。

8) 社会貢献委員会

- ・ 平成 27 年度社会貢献委員会は新メンバーで発足した。
- ・ JANS35 における企画は、前年度社会貢献委員会案を参考にメール会議により、検討を重ね決定した。市民フォーラムのテーマは「けん玉でいきいき健康づくり・けん玉を体験してみよう」とし、公益社団法人けん玉協会所属 2 名の講師による講演と実際の体験講習を企画した。また、中学・高校生を対象としたナーシング・サイエンス・カフェは、テーマを「時代を拓く看護の魅力・見て聞いて触れて感じて考える、看護の役割」とし、3 名の看護師、保健師、助産師をお迎えし、講演していただく。また、広報委員会と連携し、企画の広報に努めた。
- ・ 平成 28 年 3 月はじめての対面委員会を開催し、JANS35 社会貢献企画の評価と JANS36 企画立案を立てる確認をした。

9) 表彰論文選考委員会

- ・ 表彰論文選考委員会を 3 回（7 月、8 月、10 月）開催した（7 月はメール審議、8 月是对面会議、10 月はメール審議と一部委員による対面会議にて実施した）。
- ・ 第 1 回委員会（7 月）にて表彰論文選考方針、選考基準、選考手順を平成 26 年度の方針に準ずることを確

認し、8月会議開催までに候補論文すべてについて委員の審査を終えることを確認した。

- ・ 第2回委員会（8月18日）にて優秀賞候補7論文（和文5論文、英文2論文）および奨励賞候補6論文（和文5論文、英文1論文）を絞り込み（うち、3本重複）、審査リストを作成した。これらについて、平成27年9月1日に全代議員264名と役員に文書及びメールにて採点を依頼した。
- ・ 10月15日までに返信された163通について評価点の集計を行った（回収率61.3%）。
- ・ 第3回委員会（10月6日）にて集計結果に基づき最終選考を行い、以下のように優秀賞2編、奨励賞2編を決定し、理事会（10月25日）に報告し、承認を得た。

【優秀賞】

- (ORIGINAL ARTICLES) Kumiko Ohashi. Effects of early morning care, named “Comfort upon Rising” care, on postoperative orthopedic ambulation and morning activity. Japan Journal of Nursing Science, 11(4), 268~280.
- (原著) 高橋 有里, 菊池 和子, 三浦 奈都子, 石田 陽子. BMI からアセスメントする筋肉内注射時の適切な注射針刺入深度の検討. 日本看護科学会誌 Vol.34, pp.36-45.

【奨励賞】

- (研究報告) 山内 朋子. 他者とうまく距離をとることができない発達障害の学童に対する看護師のかかわり. 日本看護科学会誌 Vol.34, pp.170-179.
- (研究報告) 藤田 景子. ドメスティック・バイオレンス被害女性の周産期および育児期を通じた DV 被害に対する認識の回復過程. 日本看護科学会誌 Vol.34, pp.198-207.

10) 広報委員会

- ・ 広報委員会を1回開催（9月）。次回は平成28年2月に開催予定である。この他、必要時メール会議を開催した。
- ・ 連携手順と業務マニュアルに基づき、JANS35 企画委員会と連携し広報活動を行った。具体的には、プレスリリースや学術集会の記録などである。
- ・ 社会貢献委員会との連携により、市民フォーラムおよび、ナーシング・サイエンス・カフェのポスターを作成し広報を行った。
- ・ 学会 HP 内容の更新・整理を行った。

11) 若手研究推進委員会

- ・ 若手研究推進委員会を、対面式（8月29日）およびWeb媒体（4月27日）にて2回開催した。
- ・ JANS35 交流集会の企画、打ち合わせを行った。JANS36 の企画案も並行して検討した。
- ・ JANS 若手の会 HP 作成について検討・準備を行った。
- ・ 若手の研修ニーズ調査について検討・準備を行った。
- ・ JANS 若手メーリングリストを活用し、情報の発信を行った。
- ・ 日本学術会議主催の公開シンポジウム「ダイバーシティが創る卓越性～学術界における女性・若手研究者の進出～」(9月4日)に参加し、得られた情報や考えさせられたことを、メルマガ形式で発信した。

12) 災害看護支援事業専門委員会

- ・ 平成27年度災害看護支援金による助成事業の募集を行い、11件の応募（助成希望額の総額は5,218,290円）があった中から、平成27年度災害看護支援事業専門委員が看護支援事業規程第7条並びに応募要項の採択基準に基づいて厳正に審査を行った結果、平成27年度分として以下の2件を採択した。助成金の総額は、700,000円であった。

代表者氏名	事業名
中井 寿雄	医療処置を要する在宅療養者と支援者が共同で備えをするための「災害備えチェックシート」の開発～生命維持のために医療機器を要する在宅療養者の災害に対する備えの実態～
山本 由子	被災高齢者への継続的な健康維持支援プログラムの検討

- ・ 平成27年9月末に事業の進捗状況について中間報告の提出を受け、事業が順調に実施されていることを確認した。
- ・ 本事業は日本看護系学会協議会（JANA）との共催で実施しているため、平成26年度助成事業の最終報告書、収支報告書および平成27年度助成事業の中間報告書をJANAに提出した。

13) 利益相反委員会

- ・ 平成27年度から常設の委員会として利益相反委員会が発足した。構成員を5名とした。

- ・ 平成 27 年は猶予期間であるため、初めに役員、学術集会会長、各委員会委員に対し、利益相反申告書による報告を求めた。
- ・ 日本看護科学会誌、Japan Journal of Nursing Science の投稿時に利益相反申告の時期と方法を検討した。平成 28 年 1 月 1 日より、投稿時に利益相反を申告する。
- ・ 「日本看護科学学会における学術活動の利益相反に関する指針」の細則の検討をした。
- ・ 平成 28 年度から利益相反申告はすべてにおいて開始するため、JANS36 に向けて、学術集会等での発表時の利益相反申告の方法の説明内容について検討した。

14) 研究倫理審査委員会

- ・ 1 件の申請があり、簡易審査を行った。

15) 他機関との連携活動

① 日本看護系学会協議会

- ・ 平成 27 年 6 月 30 日（火）、平成 27 年度総会が日本赤十字看護大学広尾キャンパスで開催され、理事長が出席した。役員の改選結果について説明があり、新役員が紹介された。医療事故報告制度に関する学会の役割について厚生労働省の担当者から説明があり、各学会に今後の本制度への対応について依頼があった。

② 看護系学会等社会保険連合

- ・ 平成 27 年度社員総会が 4 月 23 日（木）に開催され、平成 26 年度決算、平成 27 年度事業計画・予算案、新役員が承認された。役員は、理事 7 名、監事 2 名のうち、再任が 6 名、新任が 3 名であった。
- ・ 平成 27 年度の理事会は、5 月から 10 月末までに 4 回開催された。
- ・ 平成 27 年度の新規事業として、情報交換会を年 4 回開催することになった。これは診療報酬や介護報酬について意見交換を行い、仕組みや課題を理解するという趣旨である。1 回目は「診療報酬の変遷としくみ」というテーマで 7 月 23 日に、2 回目は「DPC と看護の評価」というテーマで 11 月 19 日に開催予定。3 回目、4 回目は「介護報酬のしくみ」「入院基本料のしくみ」をテーマに今年度中に実施する予定である。
- ・ 平成 28 年の診療報酬改定に向けて、「平成 28 年度技術評価提案書」（未収載技術 11 件、既収載技術 9 件）を 6 月 18 日に厚生労働省保険局へ提出した。

- ・ 平成 28 年の診療報酬改定に向けて、「平成 28 年度診療報酬改訂に関する要望書」を 8 月 10 日に厚生労働省保険局へ提出した。地域包括ケアシステムを支える看護の機能の評価と、効率的・効果的な医療に繋がる看護の専門性への評価という 2 つの重点要望を掲げた。
- ・ 一般社団法人日本褥瘡学会から新規加盟申請があり、9 月 10 日の理事会において承認された。

③ 日本学術会議

- ・ 日本学術会議から提供のあった日本学術会議ニュース・メールを役員に提供した。

④ その他の機関

- ・ 対応すべき事案はなかった。

16) 選挙管理委員会

- ・ 代議員選出規程ならびに役員候補者選出規程に則り、Web を利用した電子投票（以下、Web 投票）方式を用いた各選挙を行った。

代議員選挙について

- ・ Web 投票期間：平成 27 年 1 月 13 日～27 日
- ・ 開票：平成 27 年 1 月 29 日 11 時～。開票立会人：有森直子先生（聖路加国際大学）
- ・ 選挙人数 7,943 名、被選挙人数 7,870 名（2 期連続代議員を除くため）、投票者総数 1,726 名、投票率 18.9%～29.7%（13 地区平均 21.7%）※前回（平成 23 年 1 月）マークシート式代議員選挙投票率は 39.5%
- ・ 新代議員名簿の理事会への提出は平成 27 年 2 月 27 日（＝代議員就任日）。各地区の定数に従い、合計 264 名の代議員を選出した。

役員候補者選挙について

- ・ Web 投票期間：平成 27 年 3 月 16 日～29 日
- ・ 開票：平成 27 年 3 月 30 日 11 時～、開票立会人：安梅勅江先生（筑波大学）
- ・ 選挙人数 264 名、被選挙人数 264 名、投票者総数（理事候補者選挙 188 名、監事候補者選挙 177 名）、投票率（理事候補者選挙 71.2%、監事候補者選挙 67.0%） ※前回（平成 25 年 3 月）Web 投票式理事候補者選挙の投票率は 70.3%
- ・ 役員候補者名簿の理事会への提出：平成 27 年 5 月 10 日（平成 27 年第 1 回理事会）

第 1 号議案

公益社団法人 日本看護科学学会 平成 28 年度事業計画（案）

（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

1. 第 36 回日本看護科学学会学術集会開催

日時：平成 28 年 12 月 10 日（土）・11 日（日）

場所：東京国際フォーラム

学術集会会長：岡谷 恵子（東京医科大学）

2. 第 37 回日本看護科学学会学術集会準備

日時：未定（平成 29 年）

場所：未定

学術集会会長：吉沢 豊予子（東北大学）

3. 第 38 回日本看護科学学会学術集会準備

日時：未定（平成 30 年）

場所：未定

学術集会会長候補者：佐伯 由香（愛媛大学）（第 3 号議案にて審議）

4. 和文誌の発行

【和文誌編集委員会】

- ・ 日本看護科学会誌第 36 巻を発行する。
- ・ 新査読ガイドラインに則り、査読システムの効果的運用と質向上をはかる。
- ・ 学会誌への投稿を促進し、原著論文・総説の増加を図る。
- ・ 和文誌編集委員、査読者の活動を支援する教育プログラム（セミナー、交流集会）を開催する。

5. 英文誌の発行

【英文誌編集委員会】

- ・ Japan Journal of Nursing Science Vol. 13 を発行する。
- ・ JJNS セミナーを開催する。
- ・ JJNS プロモーション活動を実施する。
- ・ 若手研究者の支援活動をする。

6. 看護学学術振興対策

1) 看護学学術用語の検討

【看護学学術用語検討委員会】

- ・ 看護学学術用語・看護行為用語に関する Web 調査を実施する。
- ・ 看護学領域の学術的発展：現状と課題（The State of the Art）に向けた検討をする。

2) 国際活動の推進（世界看護科学学会を含む）

【国際活動推進委員会】

- ・ 世界看護科学学会（WANS）事務局業務を行う（HP 維持管理含む）。
- ・ 看護学のグローバルスタンダードの検討をする。
- ・ JANS ホームページ内の異文化看護データベースの更新をする。

3) 看護倫理の検討と啓発

【看護倫理検討委員会】

- ・ 研究倫理指針等の改正に伴う研究活動実態調査の実施および報告をする。
- ・ 看護学が関連する倫理的社会事象に対する情報収集と対応案を検討する。

【利益相反委員会】

- ・ 役員、委員会委員、和文誌・英文誌投稿者、学術集会における発表者を対象に COI を実施し、評価を行う。
- ・ 利益相反における問題が生じた折の対処をする。

【研究倫理審査委員会】

- ・ 倫理審査(申請があり次第、メール審査、委員会招集審査のいずれか)を行う。
- ・ その他、研究倫理審査に関わる事項の検討をする。

4) 研究成果の蓄積と活用

【研究・学術情報委員会】

- ・ 看護における優先研究課題設定を目的とした情報収集体制の整備を行う。
- ・ 会員、一般社会、学術団体、行政それぞれに向けた情報発信体制の整備を行う。
- ・ JANS セミナーを開催する。

7. 学術研究論文の表彰

【表彰論文選考委員会】

- ・ 表彰論文の選考を行い公表する。

8. 学会組織の強化・発展

1) 若手研究推進委員会の活動の推進

【若手研究推進委員会】

- ・ 学術集会の交流集会を定例的に企画運営し、若手の研究活動推進に努める。
- ・ 国内外の多様な学問分野における若手研究者との積極的な交流を図る。
- ・ 「若手の会」専用の HP の管理・更新を通して、活動を公表、周知、意見交換やニーズ把握をする。
- ・ 各地域で「若手の会」の活動を牽引する「エリア・コーディネーター」を育成し、若手研究者が各地域で活躍できる基盤をつくる。

- ・ メーリングリストを介して、情報交換や相互交流を促進する。
- ・ 若手研究者向けの研修ニーズをもとに、研修を開催する。

2) 事務所体制の整備

【総務委員会】

- ・ 本会の目的を達成し、持続可能な事務所職員体制を確立するために、職員の評価・査定制度を導入し、職員体制を整備する。

9. 社会貢献活動

【社会貢献委員会】

- ・ 第36回学術集会に向けた社会貢献事業を検討し準備する。
- ・ 第36回学術集会での「市民フォーラム」および「ナーシング・サイエンス・カフェを開催する。
- ・ JANS としての社会貢献のあり方を検討する。

10. 広報活動

【広報委員会】

- ・ 学会広報媒体の作成・維持・管理(①HPの維持・管理②他委員会との連携による学会活動の広報学会活動やイベント学術集会の記録④学会広報媒体の評価と改善)を行う。
- ・ WANSに関連した広報(①WANS学術集会の広報 ②WANS学術集会におけるJANSの広報)を行う。
- ・ 学術集会に関する広報活動(次回学術集会企画委員会、社会貢献委員会との連携による学術集会の広報活動)を行う。

11. 他機関との連携活動

- ① 日本看護系学会協議会
- ② 看護系学会等社会保険連合
- ③ 日本学術会議
- ④ その他の機関

12. 理事候補者選挙

【選挙管理委員会】

- ・ Web投票システムを利用した理事候補者選挙を行う。

平成28年度 収支予算書(案)
平成28年4月 1日 から平成 29年 3月 31日 まで

科 目	備考	平成28年度 予算額 (H. 28. 4. 1～ H. 29. 3. 31)	平成27年度 予算額 (H. 27. 4. 1～ H. 28. 3. 31)	差異
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①特定資産運用収入		1,000	1,000	0
特定資産受取利息収入		1,000	1,000	0
②会費収入		88,800,000	85,700,000	3,100,000
正会員会費収入	※1	88,500,000	85,400,000	3,100,000
賛助会員会費収入	※2	300,000	300,000	0
③学会誌収入(講演集含む)		480,000	340,000	140,000
④寄附金収入(学術集会含まず)		0	500,000	△ 500,000
災害看護支援寄附金収入	※3	0	500,000	△ 500,000
その他の寄附金収入		0	0	0
⑤雑収入		4,525,000	4,403,000	122,000
受取利息収入		3,000	3,000	0
著作権料収入		200,000	100,000	100,000
セミナー収入	※4	4,322,000	4,300,000	22,000
その他雑収入		0	0	0
④学術集会収入		53,758,000	40,128,600	13,629,400
学術集会参加費収入		41,400,000	31,550,000	9,850,000
事前登録会員(10,000円)		15,000,000	14,000,000	1,000,000
事前登録非会員(12,000円税込)		5,400,000	3,600,000	1,800,000
事前登録学部生(3,000円)		150,000	600,000	△ 450,000
当日登録会員(12,000円)	※5	14,400,000	8,400,000	6,000,000
当日登録非会員(14,000円税込)		6,300,000	4,200,000	2,100,000
当日登録学部生(3,000円)		150,000	750,000	△ 600,000
寄附金・助成金収入		1,000,000	550,000	450,000
広告販売収入		10,358,000	7,388,600	2,969,400
企業展示出展料		4,806,000	2,692,000	2,114,000
広告掲載料		2,549,000	3,271,000	△ 722,000
スポンサードセミナー		3,003,000	1,425,600	1,577,400
懇親会収入		950,000	640,000	310,000
雑収入		50,000	0	50,000
事業活動収入合計(I a)		147,564,000	131,072,600	16,491,400
2. 事業活動支出				
①事業費支出		89,743,000	79,307,020	10,435,980
学会誌発行費支出		19,212,000	18,270,000	942,000
和文誌編集費支出	※6	3,300,000	3,770,000	△ 470,000
英文誌編集費支出	※7	15,912,000	14,500,000	1,412,000
編集活動費支出		2,075,000	3,613,000	△ 1,538,000
和文誌編集委員会費支出		830,000	830,000	0
英文誌編集委員会費支出	※8	1,245,000	2,783,000	△ 1,538,000
看護学術振興費支出		4,256,000	6,221,000	△ 1,965,000
研究・学術情報委員会費支出	※9	960,000	422,000	538,000
国際活動推進委員会費支出	※10	680,000	2,295,000	△ 1,615,000
看護学学術用語検討委員会費支出		1,186,000	1,134,000	52,000
看護倫理検討委員会費支出		600,000	500,000	100,000
表彰論文選考委員会費支出		220,000	220,000	0
若手研究推進委員会支出		610,000	500,000	110,000
災害看護支援事業専門委員会支出	※11	0	150,000	△ 150,000
災害看護支援助成金支出		0	1,000,000	△ 1,000,000
研究学術活動費支出		5,078,000	3,420,000	1,658,000
受賞論文表彰費支出		180,000	180,000	0
研究倫理審査委員会費		120,000	120,000	0
利益相反委員会	※12	456,000	0	456,000
JANSセミナー開催費	※13	2,677,000	3,120,000	△ 443,000
JJNSセミナー開催費	※8	1,645,000	0	1,645,000
社会的活動費支出		868,000	745,000	123,000
社会貢献委員会支出(市民フォーラム開催費含む)		868,000	745,000	123,000
総務費支出		905,000	1,370,000	△ 465,000
総務委員会費支出	※14	35,000	450,000	△ 415,000
広報委員会費支出		870,000	920,000	△ 50,000

科 目	備考	平成28年度 予算額 (H. 28. 4. 1～ H. 29. 3. 31)	平成27年度 予算額 (H. 27. 4. 1～ H. 28. 3. 31)	差異
学術集会費支出		57,349,000	45,668,020	11,680,980
当年度開催学術集会		55,149,000	42,457,460	12,691,540
会場費支出		37,623,000	18,150,000	19,473,000
会議費支出		2,085,000	1,888,500	196,500
旅費交通費支出		2,300,000	2,350,000	△ 50,000
消耗品費支出		350,000	427,560	△ 77,560
通信運搬費支出(プログラム送料含む)	※15	468,000	1,484,760	△ 1,016,760
印刷製本費支出(プログラム印刷含む)		1,532,000	6,594,840	△ 5,062,840
委託費支出		6,616,000	7,020,000	△ 404,000
人件費支出		674,000	483,000	191,000
謝金支出		891,000	1,470,000	△ 579,000
賃借料支出		250,000	0	250,000
渉外費支出		150,000	50,000	100,000
雑支出		1,130,000	1,538,800	△ 408,800
懇親会運営費支出		1,080,000	1,000,000	80,000
次年度開催学術集会(準備期間)		2,200,000	3,210,560	△ 1,010,560
会場費支出		0	0	0
会議費支出		70,000	70,000	0
旅費交通費支出		500,000	600,000	△ 100,000
消耗品費支出		20,000	100,000	△ 80,000
通信運搬費支出(パンフレット送料含む)		801,000	1,113,560	△ 312,560
印刷製本費支出(パンフレット印刷含む)		609,000	1,077,000	△ 468,000
委託費支出		200,000	0	200,000
人件費支出		0	200,000	△ 200,000
謝金支出		0	0	0
賃借料支出		0	0	0
渉外費支出		0	0	0
雑支出		0	50,000	△ 50,000
②管理費支出		54,789,000	47,820,000	6,969,000
給料手当支出	※16	21,330,000	18,980,000	2,350,000
通勤費支出		1,800,000	2,200,000	△ 400,000
福利厚生費支出		3,150,000	2,415,000	735,000
退職給付支出		300,000	300,000	0
学会総会費	※17 (※14)	500,000	300,000	200,000
社員総会費		3,900,000	3,260,000	640,000
理事会費		2,650,000	2,210,000	440,000
委託費支出	※18	5,260,000	4,910,000	350,000
渉外費支出		30,000	30,000	0
旅費交通費支出	※19	40,000	430,000	△ 390,000
通信運搬費支出	※20	2,130,000	2,390,000	△ 260,000
消耗品費支出	※21	2,320,000	1,200,000	1,120,000
印刷製本費支出		96,000	130,000	△ 34,000
慶弔費支出		50,000	50,000	0
光熱水料費支出		804,000	730,000	74,000
賃借料支出	※22	4,630,000	4,957,000	△ 327,000
保険料支出		85,000	8,000	77,000
諸謝金支出		50,000	50,000	0
租税公課支出	※23	1,072,000	570,000	502,000
負担金支出	※24	150,000	150,000	0
修繕費支出	※25	202,000	50,000	152,000
選挙費用支出	※26	740,000	220,000	520,000
資格喪失者会費支出	※27	2,000,000	1,000,000	1,000,000
雑支出		1,500,000	1,280,000	220,000
事業活動支出合計(Ⅰb)		144,532,000	127,127,020	17,404,980
事業活動収支差額(Ⅰa)-(Ⅰb)		3,032,000	3,945,580	△ 913,580

科 目	備考	平成28年度 予算額 (H. 28. 4. 1～ H. 29. 3. 31)	平成27年度 予算額 (H. 27. 4. 1～ H. 28. 3. 31)	差異
Ⅱ 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
①特定資産取崩収入		1,040,000	1,520,000	△ 480,000
選挙積立取崩収入		740,000	220,000	520,000
退職給付引当資産取崩収入		300,000	300,000	0
災害看護支援資産取崩収入	※11	0	1,000,000	△ 1,000,000
②その他投資活動収入		105,000	0	105,000
長期前払費用振替収入（事務所更新料）		105,000	0	105,000
投資活動収入合計（Ⅱa）		1,145,000	1,520,000	△ 375,000
2. 投資活動支出				0
①特定財産取得支出		1,800,000	2,800,000	△ 1,000,000
選挙積立預金支出		1,000,000	1,500,000	△ 500,000
退職給付引当資産取得支出		800,000	800,000	0
災害看護支援資産取得支出	※11	0	500,000	△ 500,000
②固定資産取得支出		105,000	100,000	5,000
什器備品購入支出		105,000	100,000	5,000
③その他投資活動支出		0	105,000	△ 105,000
長期前払費用取得支出（事務所更新料）		0	105,000	△ 105,000
投資活動支出合計（Ⅱb）		1,905,000	3,005,000	△ 1,100,000
投資活動収支差額（Ⅱa）－（Ⅱb）		△ 760,000	△ 1,485,000	725,000
Ⅲ 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入合計（Ⅲa）		0	0	0
2. 財務活動支出				
財務活動支出合計（Ⅲb）		0	0	0
財務活動収支差額（Ⅲa）－（Ⅲb）		0	0	0
Ⅳ 予備費支出		3,000,000	3,000,000	0
当期収支差額		△ 728,000	△ 539,420	△ 188,580
前期繰越収支差額		55,606,270	56,145,690	△ 539,420
次期繰越収支差額		54,878,270	55,606,270	△ 728,000

- ※1 平成28年4月1日時点での会員数を8,400名、新入会者・再入会者850名、資格喪失者400名と見積もり、合計請求人数を8,850名として計上。
- ※2 ㈱日本看護協会出版会2口、㈱医学書院・㈱南江堂・㈱へるす出版・（有）ヌーヴェルヒロカワ各1口。会費1口50,000円。
- ※3 災害看護支援のための寄付金募集を行わないため。
- ※4 JJNSセミナー受講料（165万円）、JANSセミナー受講料（89万円×1回、178.2万円×1回）で見積っている。
- ※5 JANS36学術集会参加費は据え置く。
- ※6 日本看護科学会誌（電子ジャーナル）の組版、電子ジャーナル対応経費、編集関連経費、学術集会講演集定期購読等販売用印刷製本費。電子化により発送費はなし。2016年より編集委託事業者を変更（中西印刷）し、オンライン投稿・査読システムはScholarOne Manuscriptsを活用。
- ※7 JJNS（Online Journal）の編集費、編集事務費、英文誌編集長謝金（旅費交通費、セミナー謝金を含め年間270万円）。海外からの投稿数増加により編集事務費が増加したが、編集委託事業者とも編集方法を見直し、増加幅を大幅に圧縮できた。
- ※8 JJNSセミナー費用を委員会費から独立させ、別途項目で計上している。
- ※9 情報収集体制整備のための調査（アンケート）を行う。
- ※10 世界看護科学学会（WANS）事務局業務を担っている。WANS学術集会の開催年ではないため前年度に比べ減額している。
- ※11 災害看護支援助成事業を行わないため。
- ※12 委員会新設。
- ※13 平成27年度は3回開催の予算立てをしたが、平成28年度は2回開催の予算立てのため経費が減少している。
- ※14 社員総会、理事会の書記アルバイト費用を、管理費の社員総会費、理事会費に計上。
- ※15 JANS36からの申し出により学術集会のプログラムを作成しないため、通信運搬費と印刷製本費が減少している。
- ※16 正職員5名、パート5名（週1～3日勤務）の給与・賞与。正職員の賞与を、現行1か月から2か月に増額すると共に、仕事内容・体制等を検討中。
- ※17 定例理事会6回（5月、6月、9月、10月、12月、2月）、社員総会2回（6月・12月/民間会議場使用）、学会総会1回（12月/学術集会の会場を使用）。社員の増加に伴い経費（交通費・会議費など）が増加している。
- ※18 会員管理システム利用料（197万円）＜基本利用料（95万）、コンビニ決済機能（22万）、学術集会参加登録・行事管理機能（66万）、アンケート機能（14万）＞、JANSホームページ年間維持更新管理料（67万円）、ホームページ英訳費用（32万円）、Web会議システム（44万円）＜Web会議システムを（V-CUBE）に変更＞、会計顧問料（76万円）、公認会計士監査報酬（36万円）、顧問弁護士（39万円）、マイナンバー預り・利用記録保存サービス（5万円）、事務所警備委託費（21万円）、封入委託費（9万円）。
- ※19 事務所職員の出張に伴う交通費。東京開催のため昨年度より少なくなっている。通勤費は「通勤手当」費目にて別途計上。
- ※20 任期中のため委嘱状送付が減少。
- ※21 会議用椅子の購入・廃棄費用（約100万円）を含む。
- ※22 事務所賃借料、カラー印刷機リース料、紙折り機リース料、レーザープリンタ複合機リース料。前年度予算まで複合機の保守料金が含まれていたが修繕費に修正。事務所の更新が2年毎であるため減少している。
- ※23 収益事業（学会誌販売収入、著作権収入、学術集会に伴う広告販売収入）に関わる法人税および法人事業税は0円、法人都民税約7万円（均等割分のみ）。消費税課税売上高（学術集会非会員参加費収入、広告販売収入、学会誌販売収入など）に係る消費税（本則課税方式）。2014年度消費税納税額は93万円。
- ※24 日本看護系学会協議会8万円、看護系学会等社会保険連合（看保連）7万円。
- ※25 前年度予算まで複合機の保守料金が賃借料に入っていたが、修繕費に修正。
- ※26 理事選挙にかかる費用（2年毎）。
- ※27 会費未納による退会者（会員資格喪失者）が増加している（平成24年/96名、25年/164名、27年10月末現在未納者238名）ため、資格喪失者になる前に再請求書の送付とメールによる督促を強化し、資格喪失者を減らす努力を実施中。

平成28年度 収支予算書（案）

平成28年4月1日から平成29年3月31日

公益社団法人 日本看護科学学会

科目	公益目的事業						収益事業等			法人会計	合計
	学術振興	学会誌	学術集会	市民講座等	共通	計	広告販売	連携事業	計		
I 一般正味財産増減の部											
1. 経常増減の部											
(1) 経常収益											
受取会費											
正会員受取会費					44,250,000	44,250,000				44,250,000	88,500,000
賛助会員受取会費					300,000	300,000					300,000
事業収益											
学会誌収益(講演集含む)		480,000				480,000					480,000
学術集会参加費			41,400,000			41,400,000					41,400,000
広告販売収入							10,358,000		10,358,000		10,358,000
寄付金・助成金			1,000,000			1,000,000					1,000,000
雑収益											
受取利息										4,000	4,000
著作権料										200,000	200,000
懇親会収入										950,000	950,000
セミナー収益	2,722,000	1,600,000				4,322,000					4,322,000
その他の雑収入			50,000			50,000					50,000
経常収益計	2,722,000	2,080,000	42,450,000		44,550,000	91,802,000	10,358,000		10,358,000	45,404,000	147,564,000
①事業費											
学会誌発行費		19,212,000				19,212,000					19,212,000
受賞論文表彰費		180,000				180,000					180,000
災害看護支援助成金											
会場費	1,000,000	745,000	36,965,609	250,000		38,960,609	657,391		657,391		39,618,000
会議費	168,000	195,000	2,117,345	47,000		2,527,345	37,655		37,655		2,565,000
旅費交通費	2,434,958	1,283,830	2,760,496	731,492		7,210,776	49,253	328	49,581		7,260,357
消耗品費	722,565	262,140	909,976	58,510		1,953,191	25,472	19,007	44,479		1,997,670
通信運搬費	750,264	273,948	1,748,517	146,175		2,918,904	39,623	17,450	57,073		2,975,977
印刷製本費	598,899	179,192	2,126,201	101,180		3,005,472	38,196	786	38,982		3,044,454
委託費	2,859,479	1,073,646	8,054,914	164,639		12,152,678	43,093	43,093	86,186		12,238,864
人件費(学術集会・委員会)	230,000	120,000	674,000	70,000		1,094,000					1,094,000
諸謝金	470,000	710,000	891,000	240,000		2,311,000					2,311,000
雑費	423,425	183,625	1,463,558	48,433		2,119,041	32,034	12,289	44,323		2,163,364
租税公課	101,369	88,040	454,398			643,807	392,220		392,220		1,036,027
通勤手当	448,111	172,350	423,963	22,120		1,066,544	14,747	14,747	29,494		1,096,038
退職給付費用	199,160	76,600	188,428	9,831		474,019	6,554	6,554	13,108		487,127
福利厚生費	784,194	301,613	741,935	38,710		1,866,452	25,806	25,806	51,612		1,918,064
光熱水料費	200,156	76,983	189,370	9,880		476,389	6,587	6,587	13,174		489,563
賃借料	1,152,640	443,323	1,336,159	56,897		2,989,019	42,299	37,931	80,230		3,069,249
修繕費	50,288	19,342	47,578	2,482		119,690	1,655	1,655	3,310		123,000
火災保険料	21,161	8,139	20,020	1,045		50,365	696	696	1,392		51,757
減価償却費					18,920	18,920	262	262	524		19,444
給料手当	5,310,111	2,042,350	5,023,963	262,120		12,638,544	174,747	174,747	349,494		12,988,038

第2号議案

科目	公益目的事業						収益事業等			法人会計	合計
	学術振興	学会誌	学術集会	市民講座等	共通	計	広告販売	連携事業	計		
②管理費											
懇親会費										1,080,000	1,080,000
学会総会費										500,000	500,000
社員総会費										3,900,000	3,900,000
理事会費										2,650,000	2,650,000
会場費										20,000	20,000
会議費										53,000	53,000
旅費交通費										620,643	620,643
消耗品費										917,330	917,330
通信運搬費										916,023	916,023
印刷製本費										37,546	37,546
委託費										2,337,136	2,337,136
人件費（委員会）											
諸謝金										250,000	250,000
雑費										586,636	586,636
租税公課										35,973	35,973
通勤手当										703,962	703,962
退職給付費用										312,873	312,873
福利厚生費										1,231,936	1,231,936
光熱水料費										314,437	314,437
賃借料										1,810,751	1,810,751
修繕費										79,000	79,000
火災保険料										33,243	33,243
減価償却費										84,144	84,144
渉外費										180,000	180,000
慶弔費										50,000	50,000
支払負担金										150,000	150,000
支払寄付金											
給料手当										8,341,962	8,341,962
経常費用計	17,924,780	27,647,121	66,137,430	2,260,514	18,920	113,988,765	1,588,290	361,938	1,950,228	27,196,595	143,135,588
当期経常増減額	-15,202,780	-25,567,121	-23,687,430	-2,260,514	44,531,080	-22,186,765	8,769,710	-361,938	8,407,772	18,207,405	4,428,412
2．経常外増減の部											
(1)経常外収益											
経常外収益計											
(2)経常外費用											
経常外費用計											
当期経常外増減額											
他会計振替額					8,397,134	8,397,134	-8,397,134	0	-8,397,134		
税引前当期一般正味財産増減額	-15,202,780	-25,567,121	-23,687,430	-2,260,514	52,928,214	-13,789,631	372,576	-361,938	10,638	18,207,405	4,428,412
法人税、住民税及び事業税							70,000		70,000		70,000
当期一般正味財産増減額	-15,202,780	-25,567,121	-23,687,430	-2,260,514	52,928,214	-13,789,631	302,576	-361,938	-59,362	18,207,405	4,358,412

注1 従来形式の収支予算書で表示されている各委員会費支出、学術集会費支出は、事業の目的別に区分をし、各費用科目に予算を計上している。

注2 従来形式の収支予算書の事業費、管理費は科目ごとに一定の配賦割合（面積割合や従事割合など）に基づき、本収支予算書の事業費、管理費に配賦されている。

注3 従来形式の収支予算書に表示されている「退職給付支出」、「資格喪失者会費支出（貸倒損失）」、「投資活動収支」、「予備費」は本予算書には算入しない。

注4 従来形式の収支予算書に表示されていない「減価償却費」、「退職給付費用（要積立額）」を本予算書に計上している。

第 3 号議案

第 38 回日本看護科学学会学術集会会長の承認について

- ・ 第 38 回（平成 30 年度）日本看護科学学会学術集会会長 候補者

佐伯 由香（愛媛大学）